

第3回 若手教員自主研修会

8月1日（金）に、若手教員自主研修会の第3回目を開催しました。今回は、滑川市立東部小学校の小里卓己先生を講師にお迎えし、「教室が子供の安全基地になる学級経営」をテーマに、ご講話いただきました。

研修では、子供の困った行動は注意や叱責によって減らすのではなく、教師のポジティブな関わり（促しや価値付け等）により望ましい行動を増やしていくという「ポジティブ行動支援」の考え方について学びました。

注意や叱責は、子供が一時的に静かになるといった即効性はあるものの、繰り返すうちに子供がその対応に慣れてしまい、より強い注意や叱責が必要になる悪循環に陥る可能性があります。また、子供は「叱られるのが怖いから」と話を聞いているだけで、内容が伝わっていないこともあります。

一方、ポジティブ行動支援は即時的な効果は薄いものの、継続的なポジティブな関わりを通して、教師や学級全体に温かな雰囲気生まれます。そのためには、「こうあるべき」という教師自身の枠組みを取り払い、相手を丸ごと受け止めようとする姿勢や、子供の言動に対して想像力を働かせ理解しようとする姿勢が大切であることを、具体例を交えてお話くださいました。

（具体例1）

掃除をしていない子供に対しては、「なんで掃除をしていないんだ！」と頭ごなしに注意するのではなく、その子の背景に思いを巡らせ、「何か心配なことがあるの？」と、声をかけ関係性を築いていく。

（具体例2）

教室を離れがちな子供に対しては、着席している際に「やる気あるね」と前向きな声かけを行い、行動を価値付ける。また、困ったときに出す合図を子供とあらかじめ共有しておくことで、安心してサポートを受けられる環境を整える。そうした積み重ねにより、「教室にいる方が安心・楽しい」と子供が感じられる場づくりを目指す。



【講話】



【講話の感想のシェア】



【情報交換】

研修会後半は、情報交換を行いました。若手教員が自身の学級経営を振り返ながら、心に引っかかっていることなど、講師や経験豊かな先生方に率直に質問しました。今後取り組みたいことを明確にしたり、教師としての構えを学んだりする貴重な時間となりました。

受講者の感想

2学期に向けた学級経営や困っていることを具体的に丁寧にアドバイスしていただきました。ありがとうございました。

今回の研修の中での小里先生の講話や他の先生方の話を聞いて、様々なことを学ぶことができました。1年単位で子供たちを見るのではなく、人生単位で見て子供たちを成長できたらいいなと感じました。2学期からは、子供一人一人の特性を理解したうえで支援を講じていきたいと思います。また、行事後に頑張りをフィードバックさせることが大切であることも学んだので実践に生かしていきたいと思いました。有意義な研修になりました。ありがとうございました。

これまでの研修でも、受け止めることが大切と聞いた事があったが、なかなか行動に移すことが出来ていませんでした。今回の小里先生の事例や、こうしたら良くなったという対策を聞き、2学期に取り入れてみよう！と思いました。少人数での意見交流が出来たので、困っていることをしっかり相談でき、アドバイスや対策を細かく教えて貰えることが出来たのでとても勉強になりました。

実践をくくらせた腹の底からの手ごたえをお話くださって、とてもストンと落ちました。4月の始業式前に職員研修でPBSを共通理解していますが、すべての学校で行ってほしいと強く思いました。初めての100点を取らせる実践は、それだけで素晴らしいです。教師なら一度はその境地に立ちたいですね。その実践は本を出版できるレベルです。時間があれば、もっともっと具体的な話をお聞きしたかったです。

先生が若手の先生に対して、うまく質問して考えを広げたり、深めたりしているところが印象に残りました。